

# 自己評価実施要項作成に当たっての検討課題

## 実施大綱（抜粋）

### 評価の実施方法等

#### (2) 評価プロセスの概要

##### 短期大学における自己評価

各短期大学は、別に定める「自己評価実施要項」に従って、自己評価を実施し、自己評価書を作成します。自己評価は、基準ごとに、その内容及び基本的な観点に従って、短期大学全体として、また、必要に応じて学科・専攻科等ごとに短期大学の教育活動等の状況を分析し、記述します。各短期大学には、原則として、全ての「基本的な観点」に係る状況を分析、整理することが求められます。

なお、各基準に関し、基本的な観点に加えて、短期大学の目的に即して、独自の観点を設定する必要があると考える場合には、これを設定した上で、その観点についての状況を分析し、記述することができます。

また、各短期大学の優れた点、改善すべき点などを評価し、記述します。

## 1 観点ごとの分析について

機構の評価の目的（各短期大学の教育研究活動等の改善に役立てること等）、短期大学側、機構側それぞれの事務量、評価者の負担等を考慮し、自己評価書における評定をどのように実施するか。

### 【段階を示す定型句等による評定を行わない場合】

各観点ごとに、当該短期大学における観点を分析・整理し、その結果について、各大学の判断によりわかりやすい表現で評価するとともに、その理由を記述することとするが、段階を示す定型句等による評定は行わない。

### 【段階を示す定型句等による評定を行う場合】

各観点ごとに、当該短期大学における観点を分析・整理し、その結果について、段階を示す定型句等による評定を行うとともに、その理由を記述する。

高等専門学校（試行的評価）の例

「優れている」、「相応である」、「一部問題がある」、「問題がある」の  
4段階の評定

## 2 各学科等の取組状況の分析と短期大学全体の取組状況の分析等との関係について

必要に応じて学科・専攻科等ごとに分析，整理する場合に，機構における評価の実施（評価報告書の作成までを含む）等を見据え，どのように実施するか。

必要に応じて学科・専攻科等ごとに分析を要する観点は，原則として，「構成する観点について全ての学科・専攻科等ごとの状況を把握することが必要と考えられる基準（例えば：基準3，基準4，基準5，基準6）における観点」とした上で，各基準の性格を踏まえ，短期大学全体として基準を満たしているかどうかを判断することとしてはどうか。

なお，短期大学全体の状況を分析することにより，学科・専攻科等ごとの状況を過不足なく分析できる場合には，必ずしも学科・専攻科等ごとの記述は要さない。

学科・専攻科等ごとに分析した各観点に関しては，その状況を総合して短期大学全体の状況として整理・評価し，記述することが必要である。その方法については，各短期大学の目的，それを踏まえた各学科・専攻科等の構成等も勘案して，各短期大学において判断することとしてはどうか。